

USB リベラメンテ試作品の試聴

1. はじめに

インフラノイズ社がリベラメンテシリーズの一環として USB リベラメンテを開発、販売するというアナウンスがありました。

開発状況：

<http://www.infranoise.net/>

USB リベラメンテ試作品：

<http://art.pepper.jp/>

USB リベラメンテ製品：

<http://art.pepper.jp/>

<http://www.phileweb.com/>

<http://www.pc-audio-fan.com/>

本 HP においても公表資料を照査し、自分なりに解釈を加えてみました。

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/08/ea04714464e44657d707f2007f41c54f.pdf>

要約しますと、①音楽の演奏では音程や和声などを重視して演奏が行われるが、録音や再生など電気音響的処理の過程で忠実に模写、再現できない場合があり、ケーブルもその一つである、②USB ケーブルは本来音楽再生用ではないので、ノイズの混入その他の問題が内在する、③USB ケーブルの持つ問題点を可能な限り解消し、音楽演奏の再現に近づけるような手法で開発した、といったことのようにです。

現在、同社の旧作ケーブル USB-W4 と USB-W1 を使っていますので、おおいに興味を引かれ、インフラノイズにお願いして既に Jimmy Jazz で試聴された USB リベラメンテ試作品をお借りし、拙宅で A 氏とともに聴かせていただくことにしました。

2. 試聴方法

試聴は USB リベラメンテ 3.9m を PC と DAC/DDC の間で使用することと USB リベラメンテ 1.3m を PC と音源ストレージの間で使用することにより行いました。

DDC は USB-201 を使用し、DAC は SWD-DA10 と MYTEK DIGITA 192-DSD を使用しました。

USB-201 は AudioGate により主として PCM 音源を以下のルートで試聴します。

PC→USB-201(192KHz)→CCV-5(96KHz)→DAC-1→DA-3000(44.1KHz) →
MYTEK DIGITAL 192-DSD(DA-3000 よりクロック供給)

ここで USB-201 と CCV-5 には GPS-777 からクロックを供給し、DA-3000 には

ABS-7777 からクロックを供給しています。

SWD-DA10 では HQPlayer により主として DSD 音源を以下のルートで試聴します。

PC→SWD-DA10(176.4KHz)→DA-3000(44.1KHz)→MYTEK DIGITAL

192-DSD(DA-3000 よりクロック供給)

ここで SWD-DA10 には GPS-777 からクロックを供給し、DA-3000 には ABS-7777 からクロックを供給しています。

MYTEK DIGITAL 192-DSD では HQPlayer により主として DSD 音源を以下のルートで試聴します。

PC→MYTEK DIGITAL 192-DSD(88.2KHz)

USB リベラメンテ 3.9m の対照としてはインフラノイズの旧作の USB ケーブルである USB-W4 を使用しました。

なお、MYTEK DIGITAL 192-DSD の試聴では、外付け HDD・外付け SDD・外付け CD ドライブからの再生も行い、ここに USB リベラメンテ 1.3m をインフラノイズの旧作の USB ケーブルである USB-W1 を対照として試聴しました。外付け HDD・外付け SDD・外付け CD ドライブは B 型ミニの接続端子ですので B 型→B 型ミニの変換プラグを使用しました。これらのストレージはいずれも以前に PC オーディオを始めた頃、音が良くないので改造実験をやっていた頃の古いものです。予め動作確認を実施したところ、外付け HDD と外付け SDD は問題がなかったのですが、大昔の外付け CD ドライブは音切れが発生しましたので、使いなれた音楽専用 CD ドライブの Plextor Premium 2U に替えました。



3. USB リベラメンテ試作品の試聴結果

AudioGate により PCM 音源を 96KHz の設定で送り出した USB-201 経由の音は、USB-W4 から USB リベラメンテ 3.9m に替えることにより様変わりをしました。AudioGate で DSD 音源や Plextor のドライブから読み出した CD 音源を PCM96KHz にリアルタイム変換した場合も同様でした。一言で言えば、音楽の实在感が USB-W4 でも十分と思われていたのが、USB リベラメンテ試作品でさらに一皮むけた印象です。

次に、HQlayer により DSD 音源を SWD-DA10 経由で聴いてみますと、DSD の再

生でも USB リベラメンテ試作品は USB-W4 をしのぐことが分かりました。さらに Plextor のドライブから CD を読みだして、DSD にリアルタイム変換する場合も、ケーブルを USB-W1 から USB リベラメンテ 1.3m 試作品に替えると先の AudioGate の場合と同様、大きな効果がありました。

USB リベラメンテの効果は MYTEK DIGITA 192-DSD 単体使用でも同様に、DSD 再生、PCM から DSD へのリアルタイム変換再生、PCM 再生のいずれでも大きな効果がありました。ここで古い HDD に入れた DSD 音源を読み出したり、128GB の SSD から、以前に集めた 192KHz,24bit WAV を読み出したりしましたが、これらのストレージの印象ががらりと変わってしまいました。

さらに、面白いことには上記二つの DSD 対応 DAC の音の特徴が今までよりはっきりと分かるようになったことです。つまり DDC や DAC の特徴、それぞれの再生ソフトの特徴、DSD と PCM のフォーマットの違いなどがグレードアップしながらもしっかりと聴き分けられるようになったことです。このあたりは、製品版導入後時間をかけて検証していくつもりです。

これらの試聴の途中、HQPlayer では USB-201 を認識しないで使えないと思っていましたが、それは HQPlayer Desktop 3 ASIO の場合であって、HQPlayer Desktop 3 を立ち上げると USB-201 を認識するようになって使えることが分かったというおまけもありました。

4. まとめ

以上、USB リベラメンテは、PC から DAC や DDC への送り出しに使っても、PC と音源ストレージとの接続に使ってもインフラノイズ社の旧製品 USB-W1/W4 に比べてはるかに高いパフォーマンスを示すことが分かりました。

DSD 再生では期待通りという印象でしたが、最近多用している DSD 対応 DAC の前に若干色あせていた USB-201 による PCM 再生が驚くほど良くなりました。また、音源ストレージと PC の間に使った場合は、古い音源ストレージ自体が変身したかのような印象でした。つまり、「最新のハイレゾ再生機に比べて良し、少し以前の機器やストレージに使っても、これらが蘇える」といった印象です。以上は、駆け足の試聴での印象ですが、製品版を入手後時間をかけて聴いていく予定です。

注意事項としては USB リベラメンテを PC と音源ストレージとの接続に使用する場合は端子の整合に注意する必要がありますし、古いドライブを活用する場合は読み出し速度に注意する必要があります。今回の結果から PC と音源ストレージとの接続に使用する USB リベラメンテも追加し、USB2.0 B 型端子を有する高速読み出しの最新のストレージを探そうという欲が出てきました。

以上

